

英語コーパス学会 Newsletter No. 74

June 1, 2012

■会長:堀 正広

■事務局:〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8 大阪大学大学院言語文化研究科 田畑 智司研究室気付

■TEL:06-6850-5866 ■郵便振替口座:00930-3-195373(英語コーパス学会)

■URL: <http://english.chs.nihon-u.ac.jp/jaecs/> ■e-mail: jaecs.hq@gmail.com ■twitter: @JAECS2012

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

前会長退任挨拶

京都外国語大学 赤野 一郎

去る 3 月末日をもちまして任期満了で会長職を退任いたしました。2008 年 4 月に前会長の中村純作先生から引き継ぎ、まがりなりにも 2 期 4 年間、日本で唯一のコーパス研究団体である英語コーパス学会の会長という重責を務めることができましたのも、ひとえに事務局の方々、理事の諸先生、会員の皆様のご支援とご協力によるものと心より感謝申し上げます。

初代会長の齊藤俊雄先生とその後を継がれた今井光規先生の時代が、我が国における英語コーパス研究の黎明期であったとするなら、中村先生と私の時代は、コーパスに基づく研究が着実に発展した時期と言えましょう。会員が増加し、コーパス利用も多岐にわたり、若手の研究者も多く輩出してきました。会長として、当学会のこのような発展を目の当たりにすることができましたことは、研究者冥利に尽きます。在任中思い出深い行事の 1 つは、私が最も敬愛する Susan Hunston 先生をお招きし、身近で先生のお考えを拝聴できたことです。

新会長は熊本学園大学の堀正広先生です。ご存じのように堀先生はコーパスに基づくディケンズの文体研究で世界的に著名な研究者です。またコロケーション研究でも、啓蒙書や論集を矢継ぎ早に出版されておられます。学会設立 20 年目を迎え、さらなる飛躍を目指す当学会の今後を担うにふさわしい方です。事務局長の田畑智司先生と二人三脚で学会運営を進めて行かれますので、旧に倍して会員皆様のご協力をお願いし、退任のご挨拶とさせていただきます。

新会長就任挨拶

熊本学園大学 堀 正広

2012 年 4 月より、赤野一郎先生の後を引き継ぎ、会長に就任いたしました。この場をお借りしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

歴史を遡ってみますと、本学会は、1993 年 4 月

に設立されました「英語コーパス研究会」が発展して、1997 年に「英語コーパス学会」として新たなスタートを切りました。初代会長は齊藤俊雄先生で、第 2 代会長今井光規先生、第 3 代会長中村純作先生、そして第 4 代会長赤野一郎先生と引き継がれてきました。

この間、コンピュータの普及に伴って、会員数も増加し、60 名程の会員でスタートした研究会は、8 年後の 2001 年には 200 数十名となり、2004 年には 350 名、2008 年には 400 名を越える会員数となり、現在の会員数は平成 24 年 3 月 31 日付けで 393 名となっています。

大会の参加者は、第 1 回大会から北は北海道、南は九州から参集され、第 1 回目の参加者数は 56 名でした。参加者数は大会ごとに増え続け、2002 年第 19 回大会（大阪大学）では、はじめて 100 名を越えました。第 20 回大会（名古屋大学）では、148 名の参加者があり、2005 年第 25 回大会（立命館大学）では 161 名の参加がありました。昨年の第 37 回大会（京都外国語大学）は、130 名の参加者でした。

会員の業績に目を転じてみますと、この間コーパス関係の様々な業績が発表されてきました。とくに、ここ数年はめざましく、国内外の出版社からの研究書や辞書の刊行、世界に評価される学習者コーパスの作成やコンコーダンスの開発など目を見張るものがあります。

このように英語コーパス学会はこれまで着実に発展してきました。しかし、全く問題がないという訳ではありません。会員数や大会の参加者数から判断すると、数年前から増加傾向はなくなり、横ばい状態になっています。英語の研究者の間ではコーパス利用は定着してきた感はありますが、大学も含めた英語教育の現場ではコーパスはどの程度利用されているのでしょうか。もっと啓蒙的な書物の出版が必要でしょう。研究に関しては、確かに会員の中には研究成果を世界に発信し続けておられる方もありますが、海外から出版される Corpus Linguistics 関係の書物の中でもっと会員の業績について言及されるように、学会として英語で研究成果を発表する機会を作る必要があるよう

に思います。他にも学会としてさらなる発展を期するために、様々な工夫が必要でしょう。

今年は当学会の前身である「英語コーパス研究会」が設立されて 20 年目に当たります。これを記念して、今年の大阪大学での大会は記念大会と位置づけ、英国から *Lexical Priming* (2005) の著者であるリバプール大学の Michael Hoey 教授に記念講演をしていただきます。また、来年の 2013 年は 20 周年目となりますので、コーパス学会の会員のみなさまのご協力を得て『英語コーパス研究シリーズ』全 7 巻の刊行を順次開始いたします。

20 年の節目に当学会の会長という重責を担い、微力ですが、理事の皆様のご協力を得て精一杯学会の発展に尽くす所存です。会員のみなさまのこれまで以上のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第 38 回大会のご案内

英語コーパス学会第 38 回大会は、9 月 29 日（土）および 30 日（日）の 2 日間、大阪大学豊中キャンパス（〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16; <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/>）で開催される運びとなりました。会場へのアクセスは、阪急宝塚線「石橋駅」から徒歩約 15 分、大阪モノレール「柴原駅」から徒歩約 10 分程度です。事前に経路と時刻をご確認ください。

第 38 回大会は本学会設立 20 年目の大会に当たり、記念大会と位置づけられており、英国 Liverpool 大学の碩学 Michael Hoey 先生を特別講演の講師として招聘する予定です。どうぞご期待ください。

詳細については、8 月下旬に送付予定の「大会資料」をご覧ください。

第 38 回大会研究発表者募集

英語コーパス学会第 38 回大会において、発表を希望される方は、下記の要領に従って e-mail で事務局宛に奮ってご応募ください。

【分野】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた英語研究。

【応募資格】本学会員であること。

【発表方法】発表 20 分、質疑 10 分。

【応募方法】冒頭に題名のみを記し、800-1200 字（参考文献は別）にまとめ、電子メール添付ファイルで送付。電子メール本文に氏名（ふりがな）、所属・職名、住所、電話番号、電子メールアドレス明記。

※審査の際、応募者が特定されないよう、事務局が応募書類を加工させていただくことがございます。

【応募締め切り】2012 年 6 月 30 日（土）必着

【採否決定】2012 年 7 月末（予定）

【問合せ】〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-8
大阪大学大学院言語文化研究科
田畑 智司研究室気付
英語コーパス学会事務局
e-mail: jaecs.hq@gmail.com

会誌『英語コーパス研究』第 20 号論文投稿募集について

本ニューズレターとともに、『英語コーパス研究』第 19 号が同封されています。

第 19 号には 2 点の論文、1 点の研究ノートが採択され、講演論文、シンポジウム論文と共に掲載されています。

続きまして、『英語コーパス研究』第 20 号の原稿を次の要領で募集いたします。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

【原稿の種類】

1. 英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」、「実践報告」
2. 「書評」、「コーパス紹介」、「ソフトウェア紹介」、「海外レポート」、「論文紹介」などの各種情報あるいは紹介原稿

【投稿申込締め切り】2012 年 7 月 31 日（火）

氏名、所属、原稿の種類とタイトル、連絡先住所を下記の原稿提出先まで電子メールにてお知らせください。メール件名は『『英語コーパス研究』第 20 号投稿申込』とし、メール本体に上記の情報を簡条書きで記入ください。

【原稿提出締め切り】2012 年 9 月 30 日（日）

電子メール添付にて提出してください。提出方法等についての詳細は学会 Web ページの投稿規定 http://english.chs.nihon-u.ac.jp/jaecs/Guidelines/ECS_SGuide-j.pdf を参照してください。

※なお、本文や図表の体裁および参考文献目録の表記の統一などに関して第 19 号を参照の上、十分にご配慮ください。

【問い合わせ先・原稿提出先】

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41
東北大学・大学院国際文化研究科 岡田 毅
TEL: 022-795-7632 FAX: 022-795-7632
e-mail: t-okada@intcul.tohoku.ac.jp

【原稿の長さ】（厳守ください）

1. 研究論文
和文：A4 サイズ 1 ページあたり 35 字×30 行、17 枚以内（10.5 ポイント（MS 明朝）使用）

英文：A4 サイズ 1 ページあたり 70 ストローク
×35 行、17 枚以内 (10.5 ポイント(Times New Roman)使用)

※いずれも Abstract (英文)、図表、注、参考文献
目録、付録を含む

2. 研究ノート

研究論文の書式と同様で、12 枚以内
※いずれも Abstract (英文)、図表、注、参考文献
目録、付録を含む

3. その他

研究論文の半分以下

【書式】

第 19 号所収の論文を参考にしてください。詳細は
上記の学会 Web ページで確認ください。

【採用通知】2012 年 11 月下旬

【刊行予定】2013 年 5 月下旬

※なお、投稿申込 (7 月末締切) への応募の有無
に関わらず、9 月末の原稿締め切りまでに投稿頂
ければ、会誌への投稿は可能です。

『英語コーパス研究』編集委員会委員長
岡田 毅 (東北大学)

英語コーパス学会賞について

4 月 28 日に開催された理事会にて、英語コーパ
ス学会賞・奨励賞について、いくつかの委員会了
解事項に加えて、以下の変更が承認されましたこ
とを報告いたします。

(1) 学会賞・奨励賞の応募期限

従来の 5 月 15 日から 6 月 30 日に変更する。

(2) 奨励賞の受賞資格

「35 歳以下または大学院修了後の研究歴 5 年以
下の学会員」という資格を改め、「39 歳以下の若
手研究者 (学会員)」とする。

今回の改正点もご考慮いただき、2012 年度学会
賞・奨励賞にふさわしい英語コーパス研究業績が
ありましたら、学会ホームページの <http://english.chs.nihon-u.ac.jp/jaecs/Admin/Award/award-j.html> に
リンクされている「推薦理由書」にて、本ニュー
ズレターにある事務局まで (自薦、他薦を問わず)
ご推薦くださるようお願いいたします。なお、
審査結果は 9 月末大阪大学で開催される第 38
回大会で発表する予定です。

学会賞選考委員会委員長
深谷 輝彦 (椋山女学園大学)

東支部活動報告

2012 年度より東支部では、支部長が投野由紀夫
先生から塚本聡に交代し、2 名が新規に委員に加
わり、1 名が退任しました。本年度の委員は投野
由紀夫、山崎俊次、大和田栄、石井康毅、大羽良
(敬称略) の計 6 名 (支部長含む) で運営してい
きます。よろしくお願いいたします。

「東支部課題別シンポジウム」の第 2 回シン
ポジウムおよび講演が下記のとおり 2012 年 3 月に行
われ、約 40 名の参加がありました。

『東支部課題別シンポジウム』第 2 回

テーマ: 「コーパス分析と辞書」

日時: 2012 年 3 月 18 日(日) 13:00~17:40

場所: 成城大学 3 号館 2 階 321 教室

コーディネーター: 石井 康毅 (成城大学)

発表テーマ

石井 康毅 (成城大学) 「コロケーションリストの
もう一歩先へ: 英和辞書の執筆者と使用者の立
場から」

小林 雄一郎 (大阪大学大学院・日本学術振興会特
別研究員) 「コロケーション抽出のための統計指
標と語彙指標」

大羽 良 (中央大学) 「コーパスからの構文頻度の
抽出と辞書への活用: 現状と課題」

吉村 由佳 (東京理科大学他非常勤) 「品詞別に見
るコーパス情報の英和辞典への反映」

内田 諭 (東京外国語大学) 「FrameNet as a Refer
ence: 英語学習辞典への応用法を探る」

投野 由紀夫 (東京外国語大学) 「学習者コーパス
情報を辞典に活かす」

講演

Michael Barlow (University of Auckland)

WordSkew 講演

コーパスを辞書編集に活かすという取り組みは
既に当然のこととして行われるようになってきま
した。特に、執筆者がコンコダンスラインやコロ
ケーションの頻度データを見ながら定義・用例・
語法等を執筆するというコーパス利用の形態は
徐々に広まってきています。しかしながら、辞
書の執筆者が必ずしもコーパスの利用に関して十
分な知識を持っているわけではなく、また独自に
コーパスを処理して一般的なツールでは得られな
い情報を抽出するための技術を持っていないこと
も少なくありません。

このような状況を鑑み、データ処理と執筆をも
う少し深いレベルで統合することで、コーパスか
ら得られる知見を辞書の記述により深いレベルで
反映し、記述の質を高めるための方法について議
論する場として、本シンポジウムは企画されまし
た。前半のセッションでは、コーパスやその他の

言語データ資源から直接的にデータを引き出し、それを辞書や英語学習教材の制作に活かすという実践の経験を持つ発表者が、様々な手法や遭遇した問題、今後の展望などについて発表を行いました。後半のセッションは、発表者と参加者との議論を通して、コーパスを辞書執筆、英語学習教材製作、さらには英語教育一般により広く深く活用していく可能性について考える場となりました。

概要および各発表の詳細は、以下の東支部 URL をご覧ください。

<http://english.chs.nihon-u.ac.jp/jaecs/jaecse/workshop/symposium201203.html>

なお、本年度の活動を計画中です。決定し次第、お知らせいたします。

東支部長
塚本 聡 (日本大学)

新入会員紹介 (5 月 25 日現在, S は学生)

大浦 彩 University of Leeds S
金子 恵美子 会津大学語学研究センター

理事会の決定事項について

4 月 28 日 (土) 13 時より大阪大学豊中キャンパスで開かれた理事会におきまして、以下の議案が審議されました。

■人事について

(1) 理事の任期・定年について

審議の結果、理事の定年を 65 歳に変更することが承認されました。

(2) 東支部長の新任・退任について

退任：投野由紀夫先生 (東京外国語大学)

新任：塚本聡先生 (日本大学)

投野先生長い間お疲れ様でした。塚本先生、東支部がますます活発になりますよう、よろしくお願い申し上げます。

(3) 学会賞選考委員会委員の新任・退任について

委員退任：鈴木敬了先生 (大東文化大学)

委員新任：地村彰之先生 (広島大学)

鈴木先生、ご尽力いただきありがとうございます。地村先生、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(4) 大会企画委員の新任・退任について

退任：阿部真理子先生 (高崎経済大学), 石川慎一郎先生 (神戸大学), 後藤一章先生 (摂南大学)

新任：石井康毅先生 (東京理科大学), 石川有香先生 (名古屋工業大学), 小林雄一郎先生 (日本学術振興会・立命館大学)

阿部先生、石川慎一郎先生、後藤先生、お疲れ様でした。ご貢献に感謝申し上げます。石井康毅

先生、石川有香先生、小林雄一郎先生、本学会大会のますますの活性化のために、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■英語コーパス学会 Web 委員会の設置について

本学会 Web サイトの管理運営については、長きにわたって西納春雄先生 (同志社大学) に大変なご尽力をいただけてきました。業務負担の偏りを是正するため、Web 委員会を設置し、本学会 Web サイトのアウトソーシングを含め、管理運営業務の効率化を検討することになりました。委員には金澤俊吾先生 (高知県立大学), 阪上辰也先生 (広島大学) に就任いただくことになりました。委員長は事務局の田畑がつとめ、経験豊富な西納先生にアドバイザーをお願いすることが決まりました。また、当面は塚本聡先生に管理をお願いしている東支部の Web サイトと同じサーバーでサービスを提供することになりました。

■2010 年度決算報告と 2011 年度予算案について

会計の小島ますみ先生 (岐阜市立女子短期大学) より、古田八恵先生により監査を受けた 2011 年度決算の報告と 2012 年度予算の提案があり、審議の結果、承認されました。詳細は同封の 2011 年度決算報告書ならびに 2012 年度予算案をご覧ください。

■今後の大会日程と開催校

第 39 回大会 2013 年 10 月 5-6 日 東北大学
第 40 回大会 2014 年 10 月 熊本学園大学

事務局から

この 4 月より新しく事務局長として田畑智司 (大阪大学) が就任いたしました (一期 2 年間)。もとより微力ではございますが、本学会のお役に立てるよう力を尽くす所存です、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

事務局からの情報発信のツールとして従来のメディア (ニューズレター, JAECs メーリングリスト) に加え、Twitter (@JAECs2012) でもイベントの案内などを随時行う予定です。

◇会費納入のお願い

2012 年度会費 (一般 5,000 円, 学生 3,000 円) を、日本郵便にある払込取扱票を使ってお納めいただきますよう、ご協力をお願いいたします [振替口座: 00930-3-195373]。※事務局の交代に伴い、口座番号が変わりました。旧年度の口座番号印字済みの振込票はお使いいただけませんのでご注意ください。日本郵便発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきますので、ご了承ください。別途領収書が必要な方は、80 円切手を同封の上、小島ますみ (〒501-0192 岐阜市一日市場北町 7 番 1 号 岐阜市立女子短期大学) までお申し出ください。払込取扱票の通信欄によるお申し出は

ご遠慮ください。

過年度会費未納の方は、2012 年度分と併せてお納めください。会誌『英語コーパス研究』第 19 号は 2011 年度の会費を納入していただいた方にのみ、送付いたしております。また、2 年続けて会費未納の場合、*Newsletter* などの送付を中止させていただきます。

住所、所属などに変更や異動のある方は、必ず払込取扱票の通信欄にお書き添えください。

※会員の皆様には、日頃より会費の当該年度内納入のご協力をいただきまして、お礼申し上げます。会費を滞納されますと、退会時に滞納分をまとめてお支払いいただくといった事態にもなりかねません。会員の皆様におかれましては、円滑な学会運営のためにご協力いただけましたら幸いです。なお、退会を希望される場合は、当該年度内に事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

◇メーリングリストについて

英語コーパス学会ではメーリングリストを使って会員の皆様の様々な情報交換に役立てていただいているところですが、最近、宛先不明でエラーが返ってくる例も増えていきます。会員の皆様方には、電子メールアドレスに変更が生じた場合、速やかに事務局宛ご連絡いただけますようお願い申し上げます。

◇寄贈刊行物の紹介

石川 慎一郎 (2012) 『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房。〔石川 慎一郎氏より〕

塚本 倫久 (2012) 『プログレッシブ 英語コロケーション辞典』小学館。〔塚本 倫久氏より〕

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

FORUM

◆参加報告：「言語研究と統計 2012」

小林 雄一郎 (日本学術振興会)
kobayashi0721@gmail.com

2012 年 3 月 7～8 日、東京都立川市の統計数理研究所で「言語研究と統計 2012」に参加した。このシンポジウムは、2006 年度以降、同研究所の共同利用研究プロジェクトの成果発表会として、毎

年開催されている。また、毎回 50～70 人、延べ 340 人程度の参加者があったと公表されている。

今年度の発表は以下の通り。

石川慎一郎「文末表現『です』『ですよ』『ですね』『ですよ』の計量的研究」

井上聡「日本人英語学習者による品詞使用の課題」

カレイラ松崎順子「Korean Educational Broadcasting System English (EBSe) の小中学生対象の番組のコーパス分析」

松下英利香「日本人英語学習者による前置詞使用の問題点」

郭奥君「外国人のためのカタカナ語指導システムの構築と有効性の検証」

李允昊「韓国人学習者を対象とした『～込む』型複合動詞の教材開発の試み」

三宅真紀「語彙の特徴度指数による文書の特徴分析」

田畑智司「テキストマイニングからテキスト分析へ：Wilkie Collins との共著作品における Charles Dickens の文体を計る」

後藤一章「日英パラレルコーパスを用いた対訳コロケーションの抽出」

小林雄一郎「対話形式データのテキストマイニング」

澁谷竜昇「動詞 *want* の補文に見る“*to-be* 削除”のコーパス分析」

木山直毅「英語『動詞』派生形態素 *-ise* と *-ify* の意味／機能的差異」

今道晴彦「現代ドイツ語の程度副詞に見られる年代差とジャンル差：語彙・コロケーション・共起構造に注目して」

中尾桂子「国文学・国語学系論文のアカデミック性と文系学生のアカデミック性」

長加奈子・川瀬義清「日本人英語学習者の意味構造に関する統計的研究」

小山由紀江「Coh-Metrix を使った科学技術英語テキストの分析」

中野智文「科学技術英語コーパスの語彙頻度のスムージング」

高見敏子「BNC と BoE における英国全国紙の語彙頻度データの分析」

石川有香「会話における謝辞表現と話し手の属性」

浅井淳「なでしこ心理」(敬称略、発表順)。

発表題目からも分かるように、言語研究における様々な分野に統計分析を応用した事例が報告され、一般参加者も含めて非常に活発な議論が行われた。

以下、特に印象に残ったいくつかの発表について

て、簡単に述べる。まず、田畑智司氏による「テキストマイニングからテキスト分析へ：Wilkie Collins との共著作品における Charles Dickens の文体を計る」は、ランダムフォレストなどの統計的な分類手法を用いて、共著作品の著者推定を試みた。この研究における方法論的な特徴は、特徴語抽出におけるランダムフォレストの有用性を示している点である。コーパス言語学の分野では、対数尤度比検定に基づく特徴語抽出が一般的だが、1つの標本にしか生起しない語に対して極めて大きい統計量が与えられる傾向が見られる。それに対して、ランダムフォレストを用いる場合には、解が不定であるという欠点はあるものの、特定の標本にのみ生起する語を抽出する可能性が低くなるという利点を持つ。特徴語分析は、コーパス言語学における基本的な分析手法の1つであるため、このような方法論自体の検討は非常に有意義なものであると感じた。

次に、後藤一章氏による「日英パラレルコーパスを用いた対訳コロケーションの抽出」は、対訳単語抽出手法から得られる各英単語の日本語訳情報を利用し、対訳コロケーションの補正を試みた。データ処理の手順としては、まず対訳コロケーション抽出の技術（重みづけ Dice 係数）を用いて「日英新聞記事対応付けデータ」（JENAAD）から日本語訳の候補を抽出し、次に各英語コロケーションを構成する英単語の日本語訳を対訳単語抽出で発見する（最尤単語和訳）。そして、例えば名詞と動詞のコロケーションの場合、名詞の最尤単語和訳と動詞の最尤単語和訳の組み合わせが対訳コロケーション抽出時に生成される日本語訳候補内に存在すれば、それを適切な日本語訳として置き換える。このような解析の結果、既存手法と比べて、高い抽出精度が得られた。個人的には、英語教育現場における実際の使用を想定している点、外部辞書に依存しない手法であるために多様なデータへの応用が期待できる点などに感銘を受けた。

また、長加奈子氏と川瀬義清氏による「日本人英語学習者の意味構造に関する統計的研究」は、前置詞表現と受動文に焦点を当て、階層型クラスター分析や計量的多次元尺度法を用いて、英語母語話者と英語学習者が英語に対して持っている意味構造を比較した。その結果、前置詞表現に関しては、母語話者、日本人学習者、中国人学習者のいずれにおいても時間用法の独立性が高く、空間表現、時間表現、比喻表現という3つのクラスターが存在することが分かった。また、典型的な受動文については母語話者と学習者がかなり近い概念を持っている一方で、周辺的な受動文については両者に違いが見られたと報告した。この発表

は、多変量解析などの統計学に基づく量的分析と認知言語学の理論に基づく質的分析が有機的に組み合わされたものであり、本シンポジウムの趣旨に最も合った研究の1つであったと思う。

そして、小山由紀江氏による「Coh-Metrix を使った科学技術英語テキストの分析」は、難度の異なる4種類の科学技術分野の英語テキストを、従来のリーダビリティ指標（Flesch Reading Ease Score, Flesch-Kincaid Grade Level）と Coh-Metrix によって分析し、その結果を比較検討したものである。Coh-Metrix は、英語教育やコーパス言語学の分野で最近話題を集めているツールの1つで、cohesion や coherence のような語、文、パラグラフ間の意味的な関係を計量するものである。従来のコーパス分析の多くは単語・品詞レベル、あるいは構文レベルのものであった。しかし、このような意味レベルや談話レベルの分析手法が成熟していけば、言語学、言語教育、言語処理などの分野に大きなパラダイムシフトを起こす可能性がある。その意味でも、非常に今後が楽しみな研究である。

シンポジウムの最後には、統計数理研究所の前田忠彦氏が全ての発表に関して、統計の専門家という立場から講評を行った。氏のときに厳しく、ときに優しいコメントには、発表者本人だけではなく、参加者全員にとって学ぶべきことがたくさん含まれていた。なお、今回のシンポジウムは、2013年3月の開催が予定されている。